

2009 年度事業報告

学校法人 金城学院

目 次

法人の概要

- 1 建学の精神 . . . 1
- 2 学校法人の沿革 . . . 1
- 3 設置する学校・学部・学科等 . . . 3
- 4 学校・学部・学科等の学生数の状況 . . . 3
- 5 教職員の概要 . . . 3

事業の概要

- 1 事業の概要 . . . 4
- 2 主な施設等整備状況 . . . 7

財務の概要

- 1 経年比較 . . . 8
- 2 主な財務比率比較 . . . 9
- 3 グラフで見る経年比較 . . . 10

法人の概要

1 建学の精神

・福音主義キリスト教に基づく女子教育

変容の激しい今日の社会にあっても、イエス・キリストの愛、そして聖書によるキリストの教えは、永遠不変のものです。金城学院は、キリストの教えに基づく不変の愛と奉仕の精神を伝え、すべての人々の癒しの担い手となる女性を育成し、社会に送り出すことを目指しています。

・全人的な一貫教育

人格は、教育によってつくられるものではなく、教育は、内なる可能性を呼び起こして自覚させ、その成長を助けることであると考えます。知識、能力を啓発し、「人間らしい人間」を形成することは大切なことですが、全人教育の根源は、神にかたどりつくられた人の尊厳を確認させることに目的があります。

・国際理解の教育

人類は、すべてお互いに重んじ合わなければいけないという考えと、たとえそれぞれの国の体制がちがっていても、すべての国民、民族は平和的に共存できるという理念が教育の前提にあります。事実にもとづき正しい国際理解を深めることによって、世界平和に寄与する人を育成します。

2 学校法人の沿革

- 1889年(明治22年) 名古屋市東区堅杉ノ町に女学専門冀望館を創立
- 1890年(明治23年) 校名を私立金城女学校と改称
- 1927年(昭和2年) 財団法人金城女学校設立と専門学校令による専門学校設置認可
校名を財団法人金城女子専門学校と改称
- 1929年(昭和4年) 私立金城女学校を金城女子専門学校附属高等女学部と改称
- 1947年(昭和22年) 新学制による金城学園中学校設立
寄付行為を変更し、金城学院と改称
- 1948年(昭和23年) 金城学園中学校を金城学院中学校と改称
金城学院高等学校設置
- 1949年(昭和24年) 金城学院大学英文学部英文学科設置
- 1950年(昭和25年) 金城学院大学短期大学部文科・家政科設置
- 1951年(昭和26年) 学校法人金城学院に組織変更
- 1954年(昭和29年) 金城学院大学英文学部を文学部と改称、英文・国文両学科を設置
- 1962年(昭和37年) 金城学院大学文学部に社会学科増設、家政学部家政学科新設
- 1966年(昭和41年) 金城学院大学家政学部に児童学科を、短期大学部に保育科を増設
- 1967年(昭和42年) 金城学院大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程を設置
- 1968年(昭和43年) 金城学院大学大学院文学研究科国文学専攻修士課程を設置
- 1972年(昭和47年) 金城学院幼稚園を設立
- 1988年(昭和63年) 金城学院大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程を設置

- 1992年(平成4年) 金城学院大学短期大学部家政科食物専攻・家政科被服専攻を生活学科食物専攻・生活学科生活造形専攻に名称変更
金城学院大学家政学部生活経営学科設置
- 1993年(平成5年) 金城学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程設置
- 1995年(平成7年) 金城学院大学人文・社会科学研究所、消費生活科学研究所及びキリスト教文化研究所設置
- 1996年(平成8年) 金城学院大学大学院人間生活学研究科修士課程設置(消費者科学専攻、人間発達学専攻)
- 1997年(平成9年) 金城学院大学現代文化学部(国際社会学科・情報文化学科・福祉社会学科)、文学部言語文化学科を設置
文学部社会学科ならびに短期大学部文科国文専攻及び文科社会専攻は学生募集を停止
- 1998年(平成10年) 金城学院大学文学部国文学科を日本文学科に名称変更
- 1999年(平成11年) 金城学院大学短期大学部の文科国文専攻・社会専攻を廃止
金城学院大学大学院人間生活学研究科博士課程後期課程設置(人間生活学専攻)
- 2000年(平成12年) 金城学院短期大学部文科英文専攻を英語科に名称変更
- 2002年(平成14年) 金城学院大学人間科学部(現代子ども学科、心理学科社会心理学専攻、心理学科臨床心理学専攻、芸術表現療法学科)設置
家政学部を生活環境学部名称変更し、環境デザイン学科及び食環境栄養学科を設置、生活経営学科を生活環境情報学科に名称変更
文学部日本文学科を日本語日本文化学科に、英文学科を英語英米文化学科に名称変更
家政学部家政学科、児童学科及び短期大学部は学生募集を停止
- 2003年(平成15年) 金城学院大学短期大学部閉学
金城学院中学校・高等学校、中高一貫教育に移行
- 2005年(平成17年) 金城学院大学薬学部薬学科設置
- 2006年(平成18年) 薬学部薬学科を6年制に移行
- 2009年(平成21年) 文学部の言語文化学科を外国語コミュニケーション学科に名称変更。
人間科学部の芸術表現療法学科を芸術・芸術療法学科に名称変更

3 設置する学校・学部等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
金城学院大学	1949年	文学研究科、人間生活学研究科、 文学部、生活環境学部、現代文化学部、 人間科学部、薬学部	
金城学院高等学校	1929年	全日制（普通科）	
金城学院中学校	1947年	全日制（普通科）	
金城学院幼稚園	1972年		

4 学校・学部等の学生数の状況

(2009年5月1日現在) (単位：人)

学校名		入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
金城学院大学	文学研究科	21	48	36	
	人間生活学研究科	19	41	63	
	大学院計	40	89	99	
	文学部	240	960	1,188	
	生活環境学部	230	950	1,041	
	現代文化学部	245	1,070	1,138	
	人間科学部	280	1,060	1,217	
	薬学部	150	600	558	
	学部計	1,145	4,640	5,142	
	大学計	1,185	4,729	5,241	
金城学院高等学校		360	1,080	1,131	
金城学院中学校		360	1,080	1,123	
金城学院幼稚園		59	175	149	
合計		1,964	7,064	7,644	

5 教職員の概要

(2009年5月1日現在) (単位：人)

区分		本部	金城学院 大学	金城学院 高等学校	金城学院 中学校	金城学院 幼稚園	計
教員	本務	0	185	47	46	7	285
	兼務	0	789	40	31	3	863
職員	本務	4	92	7	8	1	112
	兼務	0	37	4	3	0	44

(注) 実務助手は職員に含む。

事業の概要

1 事業の概要

昨年度より続く、非常に厳しい経済環境の中で、2009年度、金城学院は、創立120周年、大学設立60周年を迎えました。こうした中においても、学院にとって重要なステークホルダーの方々に「真の満足」「将来にわたる満足」を提供し続けるためには、改めて建学の精神に基づく、「キリスト教主義による全人教育の強化」「学院の建学の精神を活かした女子教育の推進」「より具体性を伴った国際理解の充実」という3本柱の実現が最重要であるとの認識のもと、以下の事業を遂行しました。

1) 金城学院創立120周年・大学設立60周年事業の実施

(1) 記念式典・事業の実施

- ・以下の周年記念事業を、学院のステークホルダーと密な連携をとりながら、実施した。
 - 金城学院創立120周年・大学設立60周年記念式典
 - 卒業生・在学生・在校生・園児による記念演奏会
 - 金城学院高等学校・中学校・幼稚園合同体育祭
 - 柳田邦男氏講演会
 - 千玄室大宗匠講演会
 - 「マタイ受難曲」公演

(2) 至近10年間の歴史の編纂

- ・最近10年間の歴史を記述した「Double Jubilee 120/60」を刊行し、120年の歴史映像、卒業生などへのインタビュー、現在の金城学院の映像などで構成する記念DVDを制作した。
- ・学生が金城学院の歴史を知るきっかけとするため、大学W9号館に歴史的写真を展示した。

(3) 記念募金

- ・周年記念整備事業の一環である以下の教育環境の整備・拡充にあてるため、募金活動を実施した。
 - 大学里山保全・キャンパス整備
 - 中学校礼拝堂・同窓会館建築
 - 中学校・高等学校教室、高等学校キャンパス整備
 - 幼稚園南斜面こども道づくり

2) キリスト教主義による全人教育の強化

(1) 校内礼拝の励行と地域教会との関係強化

- ・キリスト教に関する下記諸行事などを実施するとともに、学生・生徒が積極的に参加できる魅力的な校内礼拝を実施した。
 - 「キリスト教の時間」音楽会
 - 昼のミニコンサート
 - 宗教改革記念講演会・展示会～宗教改革と聖書～
- ・近隣教会牧師の協力を得て、宗教教育の充実を図った。

(2) キリスト教教育の再構築

- ・日本基督教団、キリスト教学校教育同盟ほか、関係諸団体への参加・出席を奨励し、情報共有、教育内容の充実のために連携した。
- ・中学校・高等学校及び大学の枠を超えて、各学校の宗教主事の協力体制を強化及び教育内容の充実を図った。

- ・建学の精神であるキリスト教とともに、親と園児と保育者が互いに関わって、共に学び合う場を、保護者からの理解と協力を得て構築した。
- (3) ボランティア活動の活発化
- ・キリスト教主義に相応しいボランティア活動や社会活動等として、以下の活動を実施した。
 - キリスト教関係施設、社会福祉関係施設、保育関係施設などでのボランティア活動
 - キャラバン隊活動、地域へのボランティア活動
 - 名古屋市東区主催「歩こう!文化のみち」での受付ならびに野外演奏への音楽系クラブの出演または茶席での茶道部などのボランティア活動
 - ハンドベル・グリー両クラブの病院訪問、刑務所訪問などの奉仕活動

3) 学院の建学の精神を活かした女子教育の推進

(1) 教育力の向上

- ・職業のみならず人生としてのキャリア形成を目標とする教育を多様に展開しているが、本年度から大企業のトップを客員教授として招き、「キャリア開発」の特別授業を実施した。
- ・就職ガイダンスを、よりきめ細かいカテゴリーに分け、学生の就職意識が高まるガイダンスとした。また、魅力あるキャリア・アップ講座を実施し、経済動向に左右されない就職支援策を実行した。
- ・従来の語学留学に加え、「通訳海外研修」、「国際フィールドワーク」「異文化体験プロジェクト」などの海外研修を実施し、教育のグローバル化を推進した。
- ・多くの学生が、英語の自主的な学習のために、英語学習用 e-learning ソフトを継続して利用し、英語力の向上を図った。
- ・2009年4月に、「言語文化学科」を「外国語コミュニケーション学科」に、「芸術表現療法学科」を「芸術・芸術療法学科」に学科名称を変更した。また、2010年4月から、「生活環境情報学科」を「生活マネジメント学科」に、「福祉社会学科」を「コミュニティ福祉学科」に、学科名称を変更するべく準備を進めた。
- ・中長期的な学部学科改組の一環として、2011年4月に「心理学科」を「多元心理学科」に改組することとした。
- ・学部・学科で進められるFD活動をさらに推進し、学部の相互交流を行い、講演会を実施した。
- ・中学校・高等学校においては、「知識・理解」「価値・態度」「活用力」の3つの要素を養成する実践的カリキュラムによる教育活動を実践した。
- ・中高大教育協議会で、情報の共有を図り連携を強化した。

(2) 施設・設備の充実・整備

- ・2003年度より実施してきた全学の耐震補強工事は、本年度をもって完了した。
- ・太陽光発電装置、屋上緑化設備の設置などエコ・環境に配慮したキャンパス整備を行った。
- ・学生の安全を確保するために、本部棟にエスカレーターを設置するなど、通学時における駅から大学への動線の整備を行った。
- ・中学校・高等学校において、普通教室等の改修工事を実施した。
- ・足元の植物や昆虫など身近な自然と親しむことができるように、また斜面の保全のために、幼稚園南斜面に「こども道」を整備した。

4) 国際理解の充実

(1) 海外関係校との関係強化

- ・ゴンザガ大学と学術交流に関する基本協定書を締結した。

5) 健全経営の維持

(1) 的確な財政検証・予測と資金計画

- ・外部資金獲得のため、大学内向けホームページに内部、外部助成要項の公募情報を掲載し、リアルタイムな教員への情報提供を開始した。
- ・産学官連携に伴う共同研究、受託研究、奨励研究の事務業務マニュアルを整備した。

(2) 組織力の向上

- ・頻繁に発生する規程・業務マニュアルの制定・改訂・廃止に、リアルタイムに対応でき、データを一元管理できる新システムを導入した。
- ・適正な予算執行を担保するため、予算執行決裁制度の運用を開始した。

(3) 入学・入園者の確保と退学者の防止

- ・本学の教育と教育改革の姿を広く世に知らせ、ブランド・イメージ向上を図る募集力強化キャンペーンを、以下のとおり展開した。
 - 地下鉄の額面広告
 - 中日新聞の5段広告・全面広告（「金城教育マニフェスト」ほか）
 - 広報パンフレット『金城ウーマン』（卒業生たちの姿と大学のグランドデザイン）発行
- ・同志社女子大学との合同説明会を昨年に引き続き開催し、また、「同志社女子大学と金城学院大学の学術交流に関する包括協定書」を締結した。
- ・入試制度の改善、志願者の目線に立った大学説明会、高校訪問、高校教員対象進学説明会、ホームページなどによる本学各学科の魅力のPR、オープンキャンパスの一層の充実を図った。
- ・大学と中学校・高等学校との連携を強化した。
- ・修学支援や就職支援など学生の相談に幅広く対応できるようピアサポート体制を拡大した。
- ・経済的理由等での退学者が増加しており、心理カウンセリングも含めて相談窓口を充実させた。

6) 地域社会との共生

(1) 環境共生モデル地区の造成

- ・大学キャンパスの立地を活かし、W6号館西側里山保存、校舎間の通路の整備、草花の植栽など、「緑のキャンパス」として、美しい校舎とキャンパスへ整備した。

(2) 人財の派遣・提供

- ・「学内NPO」とも言うべき社会貢献事業の一環として、卒業生などへ広く協力を呼びかけ、高齢者や障がい者のおしゃれで着心地のよい衣服の提案や製作等を行い、生活をファッションの面から支援する工房「ファッション工房」を運営開始した。
- ・生涯教育・キャリア支援の拠点として名古屋市中区栄にサテライトを開設した。
- ・名古屋市主催の生活と健康に関連した健康カレッジを本学にて、専任教員ならびに非常勤講師が講師を務め、開催した。

2 主な施設等整備状況

部門	事業	実施額	予算額
法人	■軽井沢スマイハウス修繕	28,387千円	30,579千円
大学	■修繕年次計画 ○空調熱源更新工事(E1, W4号館) ○分電盤更新工事(E2, E5, W4号館) ○空調設備更新工事(E6, W7号館1階食堂) ○電気設備更新工事(W5, W6号館) ○外部・内部改修工事(W4号館) ■耐震年次計画 ○耐震補強工事(W4, W5号館) ■周年事業・校地校舎整備 ○キャンパスA地区 里山整備 ○キャンパスD地区 グランド設置 ○キャンパスG地区 E6号館太陽光発電 ○キャンパスH地区 E6号館～キリスト教センター階段整備 ○キャンパスI地区 E1, 2号館～キリスト教センター通路整備 ○キャンパスJ地区 W側通路補修整備 ○本部棟 エスカレーター設置 ○第2学生駐車場 東門整備 ○E6号館～第1学生駐車場 道路間歩道設置 ■薬学部教員実験室整備 2室 ■緊急地震速報システム連動工事	33,390千円 13,755千円 18,165千円 16,905千円 64,890千円 89,355千円 8,505千円 103,425千円 22,050千円 5,460千円 118,382千円 4,200千円 74,550千円 6,510千円 11,550千円 33,966千円 3,108千円	35,721千円 15,008千円 19,608千円 18,236千円 67,221千円 95,130千円 8,910千円 103,900千円 26,860千円 5,670千円 120,252千円 12,370千円 80,850千円 6,825千円 11,708千円 34,000千円 3,223千円
高等学校	■修繕年次計画 ○普通教室・廊下階段改修工事(地塩館, 新希望館) ○希望館4F体育館 床改修工事 ○外構舗装工事 ○希望館理科実験教室改修工事 ○希望館2F第1コンピュータ室 改修 ○プロジェクター設備(希望館旧被服室, 特別教室) ○幹線分電盤更新工事(世光館, 地塩館) ■図書システムリプレイス	70,875千円 2,940千円 22,050千円 57,855千円 23,991千円 3,508千円 7,245千円 8,775千円	73,010千円 3,013千円 22,449千円 57,855千円 25,480千円 4,812千円 7,620千円 8,775千円
中学校	■修繕年次計画 ○普通教室改修工事 ○給水管更新工事(信愛館, 恵愛館) ○空調熱源更新工事(友愛館) ■図書システムリプレイス	88,200千円 8,715千円 28,875千円 8,341千円	88,433千円 9,269千円 30,450千円 8,341千円
幼稚園	■園庭修繕工事	1,155千円	1,329千円

財務の概要

1 経年比較

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
固定資産	33,958,208	34,183,147	34,945,656	35,454,674	35,407,070
流動資産	5,984,331	6,376,667	7,048,523	7,423,954	8,182,918
資産の部合計	39,942,538	40,559,815	41,994,178	42,878,628	43,589,988
固定負債	4,001,329	3,771,508	3,451,571	3,254,691	3,034,349
流動負債	2,125,681	1,967,249	1,781,483	1,845,230	1,874,746
負債の部合計	6,127,010	5,738,758	5,233,055	5,099,920	4,909,095
基本金の部合計	38,878,313	39,951,515	41,556,504	42,586,338	43,634,426
消費収支差額の部合計	△5,062,784	△5,130,458	△4,795,381	△4,807,630	△4,953,533
負債、基本金及び 消費収支差額の部合計	39,942,538	40,559,815	41,994,178	42,878,628	43,589,988

(2) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
学生生徒等納付金収入	7,179,537	7,379,059	7,703,105	7,767,971	7,656,108
手数料収入	185,736	173,734	140,788	153,034	157,260
寄付金収入	31,522	233,956	222,579	65,563	124,682
補助金収入	1,136,190	1,236,779	1,190,745	1,232,446	1,357,681
国庫補助金収入	447,885	560,324	440,311	468,588	618,839
地方公共団体補助金収入	688,305	676,455	750,434	763,858	738,842
資産運用収入	113,458	155,639	177,001	116,221	112,545
資産売却収入	113,003	100,005	750,018	100,000	200,000
事業収入	156,521	161,810	168,208	129,127	77,479
雑収入	95,144	314,460	178,705	78,992	189,966
借入金等収入	55,568	57,673	52,671	53,713	56,637
前受金収入	1,247,216	1,279,326	1,151,130	1,250,559	12,560,78
その他の収入	2,307,901	2,230,907	2,423,659	2,180,377	2,364,796
資金収入調整勘定	△1,464,402	△1,656,231	△1,482,387	△1,359,637	△1,552,498
前年度繰越支払資金	4,235,311	5,121,915	5,276,886	6,183,680	6,587,159
収入の部合計	15,392,706	16,789,030	17,953,108	17,952,045	18,587,891

支出の部	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
人件費支出	4,930,758	5,366,448	5,119,684	5,010,464	5,258,200
教育研究経費支出	1,417,519	1,464,840	1,589,207	1,611,593	1,700,663
管理経費支出	629,145	571,195	601,882	642,676	659,002
借入金等利息支出	73,233	64,635	53,060	41,678	29,713
借入金等返済支出	321,682	317,090	318,560	316,595	305,968
施設関係支出	750,646	960,959	730,292	1,458,214	809,399
設備関係支出	364,075	410,548	212,319	205,020	261,774
資産運用支出	99,950	100,000	1,100,000	100,000	200,000
その他の支出	2,030,208	2,420,550	2,182,922	2,098,713	2,243,211
資金支出調整勘定	△346,427	△164,119	△138,497	△120,068	△149,889
次年度繰越支払資金	5,121,915	5,276,886	6,183,680	6,587,159	7,269,850
支出の部合計	15,392,706	16,789,030	17,953,108	17,952,045	18,587,891

(3) 消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
学生生徒等納付金	7,179,537	7,379,059	7,703,105	7,767,971	7,656,108
手数料	185,736	173,734	140,788	153,034	157,260
寄付金	44,680	242,950	884,735	79,965	132,173
補助金	1,136,190	1,236,779	1,190,745	1,232,446	1,357,681
国庫補助金	447,885	560,324	440,311	468,588	618,839
地方公共団体補助金	688,305	676,455	750,434	763,858	738,842
資産運用収入	113,458	155,639	177,001	116,221	112,545
資産売却差額	22,720	5	0	50	0
事業収入	156,521	161,810	168,208	129,127	77,479
雑収入	95,144	314,460	178,705	78,992	189,966
帰属収入合計	8,933,986	9,664,435	10,443,288	9,557,806	9,683,210
基本金組入額合計	△886,198	△1,073,202	△1,604,990	△1,029,834	△1,048,088
消費収入の部合計	8,047,788	8,591,233	8,838,299	8,527,972	8,635,123

消費支出の部	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
人件費	4,980,789	5,397,515	5,063,671	5,065,839	5,255,699
教育研究経費	2,504,866	2,586,259	2,762,568	2,759,720	2,811,678
管理経費	651,103	591,978	623,461	668,459	679,016
借入金等利息	73,233	64,635	53,060	41,678	29,713
資産処分差額	50,236	18,520	463	4,526	4,919
消費支出の部合計	8,260,228	8,658,907	8,503,222	8,540,221	8,781,025

2 主な財務比率比較

(単位：%)

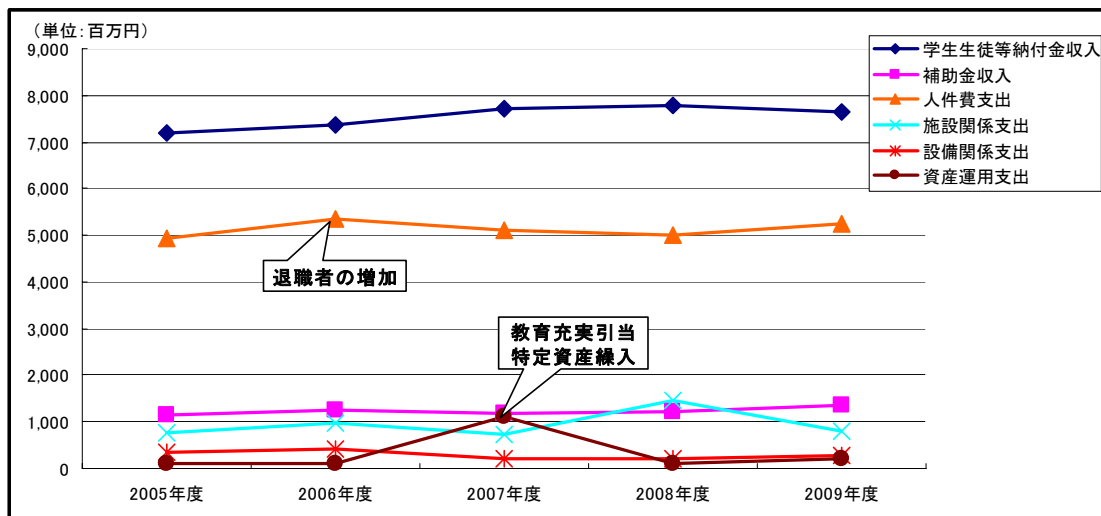
比率名	算式	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
帰属収支差額 比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	7.5	10.4	18.6	10.6	9.3
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	102.6	100.8	96.2	100.1	101.7
学生生徒等 納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	80.4	76.4	73.8	81.3	79.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	55.8	55.8	48.5	53.0	54.3
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	28.0	26.8	26.5	28.9	29.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	7.3	6.1	6.0	7.0	7.0
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	281.5	324.1	395.7	402.3	436.5
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}(\ast 1)}$	18.1	16.5	14.2	13.5	12.7
自己資金構成 比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}(\ast 2)}$	84.7	85.9	87.5	88.1	88.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.2	97.3	99.5	98.5	99.0

※1 自己資金＝基本金＋消費収支差額

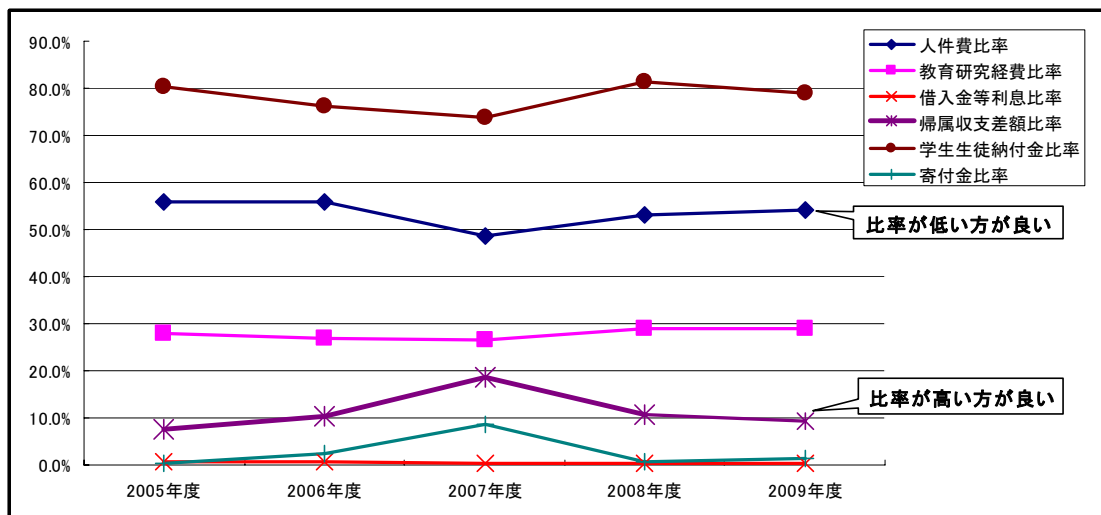
※2 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額

3 グラフで見る経年比較

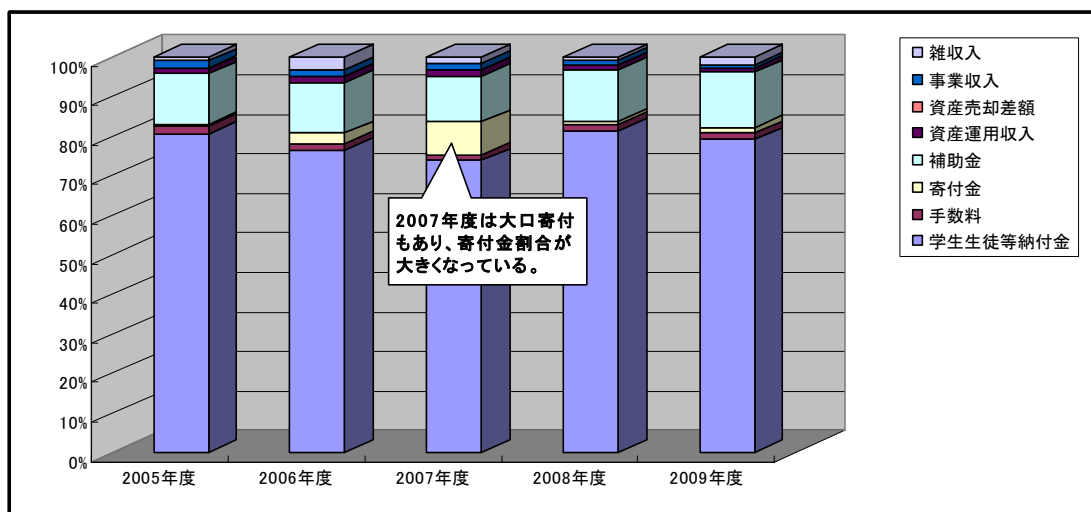
(1) 「資金収支計算書」で見る経年比較



(2) 「帰属収入に対する比率」で見る経年比較 (消費収支)



(3) 「帰属収入に対する収入割合」で見る経年比較



スクールモットー

「主を畏れることは知恵の初め」

(箴言第1章7節)

金城学院のスクールモットーは、旧約聖書の言葉です。「主を畏れる」の「主」とは、キリスト教では神を指し、「畏れる」とは、この世に命を与えられている存在（人間）としての分をわきまえ、へりくだることを意味しています。

「知恵の初め」の「知恵」とは、単に知識だけではなく、熟慮と慎重さをもって生きることへ導く賢さをも示しています。この知恵を得るために、私たちは生の真の意味と目的に目覚めなければならないでしょう。「初め」とは、そのような深い知恵を探求するすべての営みの出発点、基礎、原点を意味しています。

キリスト教主義に基づき、真理を探究する私たち金城学院での教育と研究の活動は、すべてこのスクールモットーのもとに展開されています。



KINJO GAKUIN

学校法人 金城学院

〒463-8521

名古屋市守山区大森二丁目 1723 番地

TEL (052)798-0180

URL <http://www.kinjo-gakuin.jp>